

医師国家試験に関する公開シンポジウム

# 医師国家試験に何を望むか 国民の立場から

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML  
理事長 山口 育子

## ささえあい医療人権センターCOMLとは

- 1990年スタート、2002年NPO法人化
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す 一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働 ⇒活動の目的  
より良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

# COMLの活動 (2014年10月末現在)



講演: 3340回

相談: 54061件



SP活動: 1322回 (OSCE354回)

病院探検隊: 74回



患者と医療者のコミュニケーション講座: 88回 (出前16回)

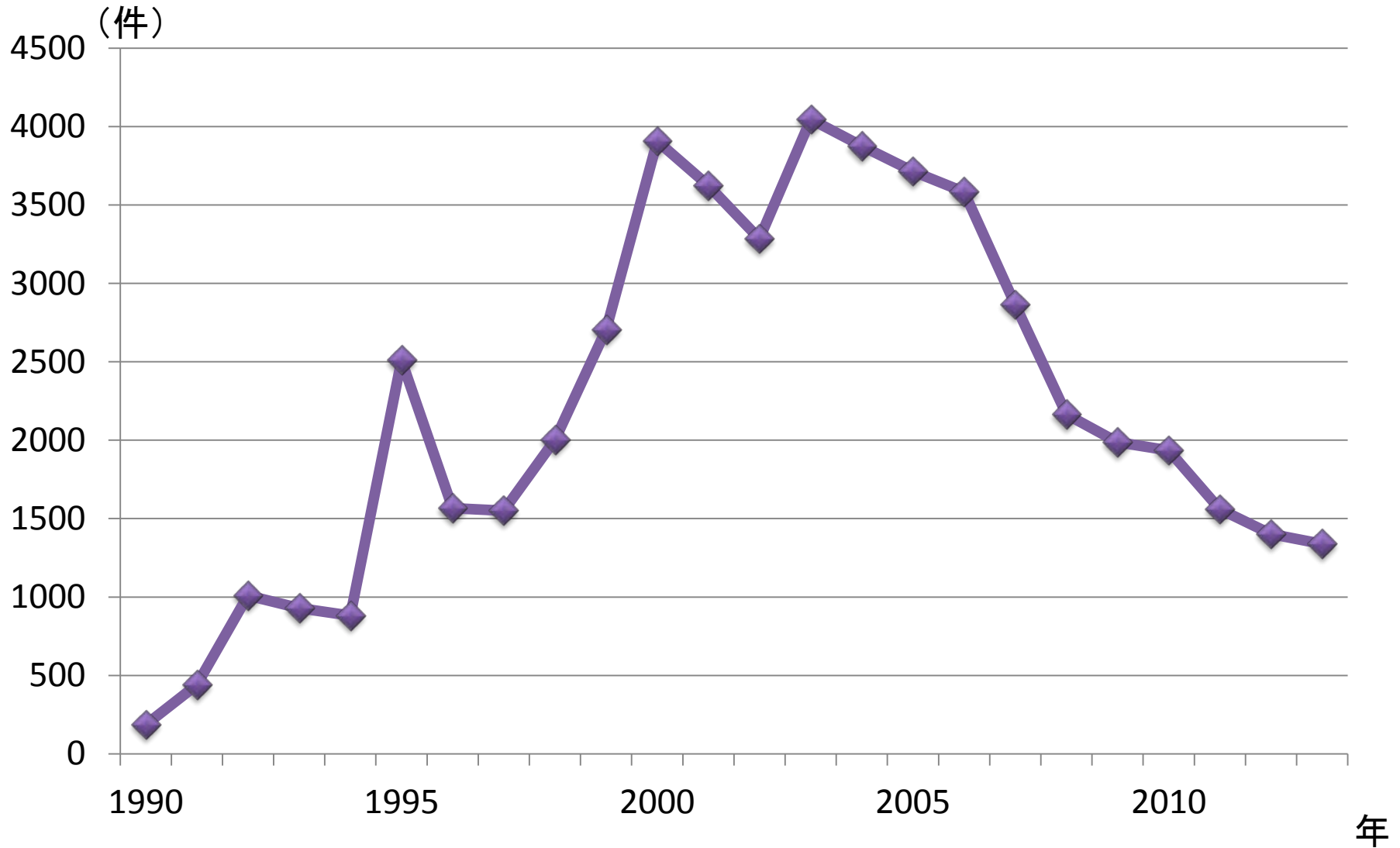


医療で活躍するボランティア養成講座 (2009年度~6期)

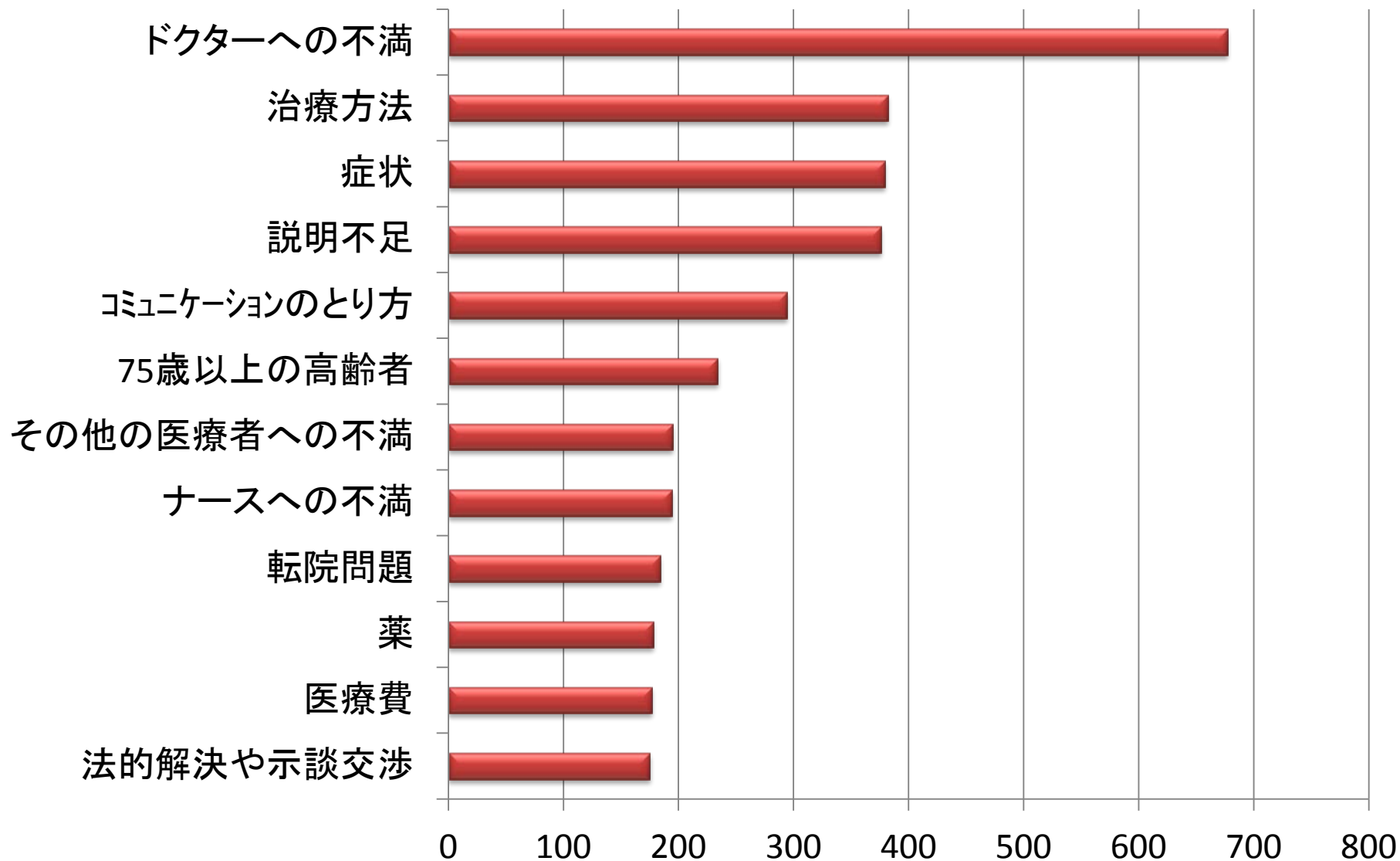


患者塾: 210回

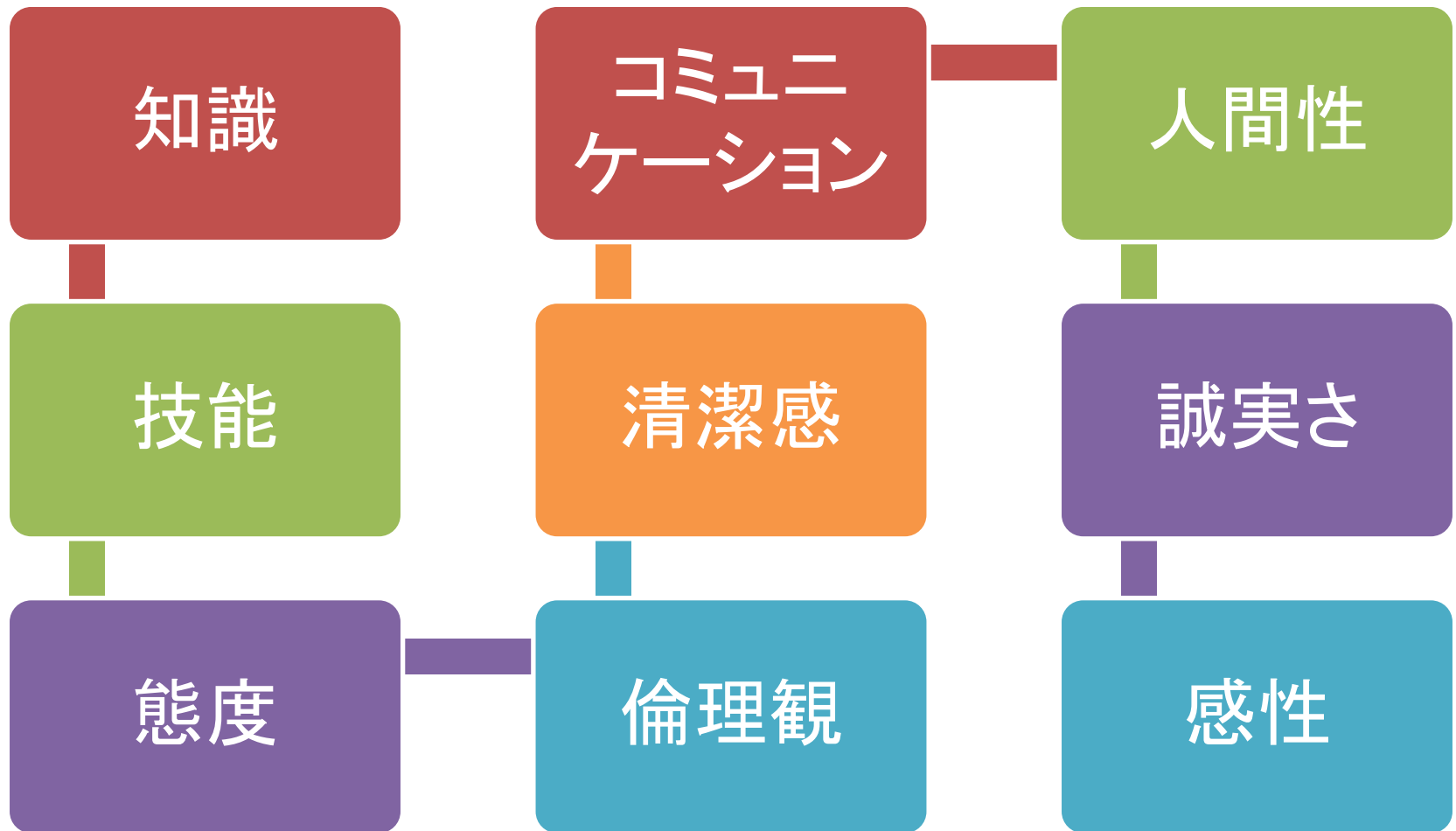
# 電話相談件数の推移



# 項目別相談件数(2013年度)

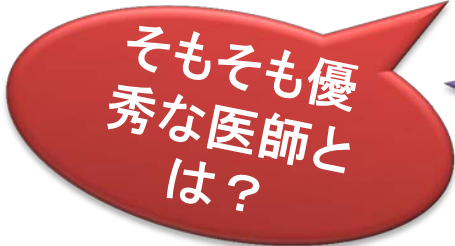


# 患者が医師に求めていること




# 国試で問われるのは膨大な知識

- 臨床で役立つ知識が問われているのか？
- 試験のための記憶作業偏重になっていないか？
- 数多くの正解回答のできる人が「優秀な医師」となるのか？



そもそも優秀な医師とは？



誰にとって優秀？

→増え続けてきた出題数と内容の吟味が必要

ペーパー試験で判断できない要素は？

技能・態度はOSCEで判断

国試で一定  
基準？

卒前OSCEで  
各大学基準？

真のコミュニケーション能力まで判断できるかは疑問...



# 国試か卒前OSCEか

- 共用試験OSCE医療面接は、よほどのことがない限り基本的に合格する
  - ・質問項目を覚えて順番に聞いているレベル
  - ・初診のみで診断なし
- 国試にOSCE医療面接を導入するとすれば、どこまでのレベルを求めるのか
- 現在の卒前OSCEは共用試験レベルの繰り返し。国試に導入せず卒前にするならレベルの向上が不可欠
- 卒然OSCEにするとしても、大学間格差、運営のあり方、学生の向き合う姿勢、倫理感の見直しが不可欠

# 若者全般に関する課題

- 世代を超えた会話のための共通言語の減少
- 社会人としての基本的マナーの欠如
- 生活体験の不足
- 世代を超えた交流の少なさ
- 真正面から人と向き合うのが苦手
  - 「どこまでプライバシーに踏み込んでいいのかわからない」
- 緊張する場面でにやける
- (自分が)怖くてシビアなことが他人に言えない
  - 弁護士がかかわる事件に発展したことも

# 試験で判定できない要素

